

核兵器をなくそう！ 被爆者を支援しよう！

核兵器廃絶 ネットワークみやぎ

核廃絶ネット通信

第13号

2025年

12月 1日発行

講演会＆第4回総会を行いました

11月22日（土）、戦災復興記念館第2会議室にて「核兵器廃絶ネットワークみやぎ」講演会と第4回総会が開催され、36名が参加しました。木村緋紗子代表は、会場いっぱいに集まった参加者を前に「みなさんの思いを力に、しっかりと運動を進めていかなければなりません」と力強いあいさつをしました。

その後、宮城県議会議員の佐々木功悦氏を講師に「ノーベル平和賞を力に核兵器のない世界の実現を～被爆体験の継承と未来に向けて～」と題して講演をいただきました。佐々木氏は、政治に携わりながら平和活動を続けてきた55年間を振り返り、平和への関心を抱いた契機や、小牛田町長・美里町長時代の非核運動、県議会議員としての取り組みを紹介。小牛田町長時代、初めての議会で「あなたの考える平和とは」「憲法9条をまちづくりにどう生かすのか」と問われたエピソードを語り、平和の理念を政治にどう反映させるかを模索してきた歩みを振り返りました。町として中学生を広島・長崎に派遣、米国ミネソタ州立大学で原爆展を開催したこと、さらに、全国に先駆けて宮城県内に平和都市宣言自治体を広げてきた経緯など、地域から核兵器廃絶を訴える運動の重要性などをお話しいただき、講演の後半では、広島・長崎の被爆映像や、今年の「被爆80年 長崎の集い」の様子が紹介され、参加者で改めて核兵器廃絶、平和への思いを共有することができました。

講演後は総会に移り、署名活動の到達や自治体への意見書採択の働きかけ、被爆80年祈念イベントなど市民へのアピールなど今期の取り組んできたこと、核兵器を巡る国際情勢が緊迫する中、署名行動や自治体への働きかけをさらに強めていくことを確認しました。

今回の講演と総会は、核兵器廃絶に向けた歩みを改めて確認し、未来へとつなげ、参加者一人ひとりが平和の尊さを胸に刻む機会となり、講演、総会後には、新たに個人加盟される方もあり、一歩ずつではありますが、着実に運動が前進していることも実感でき「核兵器廃絶ネットワークみやぎ」としてこれから活動をさらに広げていく決意を新たにする場となりました。

*会場カンパ14名の方から12,840円いただきました。ありがとうございました！



11月21日 共同署名提出行動に参加しました

日本被団協の呼びかけで、東京の星稜会館に350名が集まり、日本被団協、日本原水協、高校生100万人署名などが集めた署名の共同提出のつどいが行われました。核廃絶ネットからは、日本被団協の参加者として木村紺紗子代表・川名事務局長・被爆2世の林さんが参加しました。

これまでの累計が約345万筆と発表され、会場は大いにわきました。政党から多数国会議員が参加し、激励のあいさつをいただきました。署名の手交は、まず日本被団協・原水協・原水禁の代表者から行われ、続いてブロックごとに参加者が登壇して、代表理事が一言述べてから、外務省の担当者に署名を渡しました。北海道・東北ブロックからは木村代表が「これからも署名を集める。批准をお願いしたい」と述べて署名を手交しました。

つどい後は、衆議院第2議員会館前で集会が行われ、700名の参加で日本政府に核兵器禁止条約への参加を訴えるスピーチやコールが行われました。



東北ブロック被爆者相談事業講習会の報告

9月27日（土）～28日（日）八戸市ホテルユートリーにて、「2025年日本被団協・東北ブロック被爆者相談事業講習会」が開催され、ネット事務局6名を含む11人が宮城から参加しました。

1日目の27日、昨年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳代表委員を講師に、「ノーベル平和賞受賞と被団協運動」について講演があり、県内外から会場いっぱいの250人以上が参加し、県内6市8会場でのオンライン視聴も行われました。講演では、受賞を知った時の驚きと喜び、授賞式の様子を報告。受賞スピーチで日本政府は原爆の死者に対する補償を一切していないと繰り返した部分について、被爆者や亡くなった仲間たちの思いが語らせたものと振り返りました。来年結成70年を迎える日本被団協の長年の活動と意義を述べ、「被爆者の証言が、核兵器が人類と共に存できない悪魔の道具と示していくべき」と強調し、核兵器をめぐる世界情勢から、これからも訴え続ける必要があるとし、「核兵器廃絶を自分事として捉え、平和で安全な日本を作るために一人ひとりが行動を起こし、5人10人と行動する人を広げてほしい」と呼びかけました。自身の悲惨な被爆体験も語り、参加者は固唾をのんで聞き入っていました。講演後には、参加者との懇談会で交流しました。

2日目の28日、日本被団協中央相談所の原玲子さんを講師に「被爆80年 被爆者の援護・介護問題 被爆者の状況」についての学習会が開催され、東北6県の被爆者の会や支援団体などから32人が参加しました。その後、日本被団協の今後の取り組みや東北各県の代表者から、会の体制の維持・継続や広がりをつくること、署名を増やすことなど現状や課題についての報告がありました。最後に、次回は岩手県を開催県とすることを確認し閉会しました。